

点滴石を穿つ

定時制課程の現在

鶴川 聖一（定時制課程 教頭）

1 はじめに

定時制課程は、昭和 26 年に名瀬市立名瀬高等学校（定時制）として開校した。昭和 27 年 4 月に琉球政府立、昭和 28 年 12 月 25 日鹿児島県立に移管され、大島女子高等学校、名瀬高等学校(定時制)、大島農業高等学校の 3 校が統合され新設された鹿児島県立大島実業高等学校定時制課程となり、普通科と商業科が設置されている。その後昭和 34 年に普通科が募集停止され機械科が新設されている。新設された機械科は、昭和 43 年 4 月に、全日制の電気科・機械科・化学工学科を分離して新設された大島工業高等学校に移されている。大島実業高等学校は、昭和 45 年 4 月奄美高等学校に校名が変更され、定時制課程商業科も引き継がれて現在に至っている。今までの卒業生は、2,979 人であり今年度新たに 7 人の卒業生を送り出す。

2 定時制課程について

本校の定時制課程は、17:20 からスタートする。一日に 4 時間の授業が基本であるので、卒業までに 4 年が必要となる。だが開陽高等学校の単位を本校の卒業単位として認める制度である定通併修制度を利用して 3 年で卒業することもでき 6 割の生徒たちはこの制度を利用している。

現在在校生の最高年齢は 37 歳であり多様な生徒たちが通学している。全国の定時制高校と同じく近年では勤労青少年のための高校というより中学校までに不登校であったものや他校からの転校・転籍の生徒が増加している。年齢層が厚いため制服・校則はない。ただし、20 歳を以上のものでも校内での喫煙は認められない。現在全校生徒数 26 人が通学している。

(1) 学校行事

主な学校行事は、全日制と変わらない。一日遠足、クラスマッチ、校内生活体験発表会(全日制的弁論大会に相当)、体育祭、文化祭などが開催される。違うのは、一日遠足を除いて夕方から開催されることである。

ア 一日遠足

あさに海浜公園に集合、赤崎公園までの登り道のゴミを拾って歩くのが恒例となっている。皆手にゴミ袋と火バサミを持ち空き缶やたばこの吸い殻などを拾いゴールデンウィークに利用される方々が気持ちよく通れるようにと活動する。

赤崎公園では、各自思い思いの時を過ごす。ギターを弾くもの、フリスビーをするもの、仲間を集めて野球やバレーをするものもいる。女生徒の中にはシロツメ草で上手にティアラを作るものもいたりする。



イ クラスマッチ

名前はクラスマッチだが人数が少ないので学年・クラスを取り払いチーム編成して、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、フリースロー大会など様々な競技をする。勝敗に関わらず和やかな雰囲気競技している様子は楽しげである。



ウ 生活体験発表会

この発表会は、定時制通信制課程自治連盟が主催しており校内大会・県大会・全国大会へとつながる大会である。生徒たちはこれまでの生活を振り返り定時制に通う今を語る。今年度は、県大会で4年生の津畑勝喜君が優秀賞、3年生の眞 正博君、濱崎 まいさんが優良賞を受賞した。全国大会へは開陽高校通信制課程の生徒が選ばれた。眞君は、30歳を過ぎ妻子を持ちながらも定時制高校に通うに至った経緯や周囲への感謝、特に妻への感謝を発表した。彼にはMBCから取材申し込みがあり職場・学校・家庭と撮影等が行われて、開陽高校の生徒ともに「MBCニューズナウ」の中で紹介された。



エ 体育祭

第50回体育祭は、体育館で行われた。生徒による紅白組の他に、保護者やOB、教職員で編成する青組も加わり3チームで競い合う。競技は、ムカデ競走、綱取り、障害物走など12種目が実施された。終盤で行われた「八月踊り」は、体育祭前までOBから指導を受けながら本番を迎え、観客を踊りに加えて和やかな踊りが披露された。今年度は、「ちびっこ徒歩」も行われかわいい走りを見せてくれるなど各競技には、多くの方に参加していただき賑やかな体育祭となり紅組が優勝で閉幕した。



オ 文化祭

第50回文化祭は「令和の奄定魂！皆で最高の結晶を！」を大会テーマに開催された。今年度からスタートした「総合的な探求の時間」の中間発表の要素も盛り込み、書道・家庭等の作品展示や舞台発表・朗読劇など多彩な発表があり来場者を楽しませた。中でも「奄美CM」の発表は、奄美の魅力を「文化」「食」「海」に分けて紹介した。その中では、取材する際の礼儀や取材前の絵コンテの大切さ、撮影方法などに関して発表された。その映像は、本校定時制のブログにある

ので是非ご覧いただきたい。

また、朗読劇は卒業を間近に控えた4年生3人が、教室で語り合っている様子を舞台上で演じながらパワーポイントを使って入学式から今までの思い出を語るというスタイルで行われ皆見入っていた。文化祭は、少ない人数ながらもこれだけのものができるという、自分たちの可能性を発表できる良い機会となった。



(2) 資格取得

今年度は、鹿児島県内定時制高校初となる全商検定4冠（珠算電卓実務、簿記実務、ビジネス文書実務、情報処理）を3年の小野聖矢君が成し遂げ新聞やあまみ FM で紹介されるなどした。生徒たちは、商業科であるので全商検定を主に社会人常識マナー検定などにも取り組み取得を目指している。

(3) 部活動

部活動は現在バスケットボール部、バドミントン部、柔道部の3つが活動をしている。今年度は、3年の眞正博君が、県大会を突破して第50回全国高等学校定時制通信制柔道大会へ参加し特別賞である「石澤奨学会理事長賞」を受賞した。特別賞受賞は、地元紙の南海日日新聞、奄美新聞でも紹介された。部活動は、月・水・金の週3日、それも授業終わってから21:30までの短い活動ではあるが楽しく活動している。

3 おわりに

地元紙に定時制卒業生のことが書いてある。終戦から昭和28年12月25日のその日まで奄美は、米軍政下に置かれていた。当時の定時制でも「日本復帰の歌」が合唱され、社会で即戦力となる人材育成のため授業が行われており壁面には「点滴石を穿つ」の文字。働きながら夜遅くまで学校に通う生徒たちを勇気づけたとある。現在でもアルバイトをしながら夕方から学校に通う生徒たち、クラスの中で20歳もの年の差がある定時制ではあるが、年齢層が厚いからこそ様々な意見などを聞ける環境が整っているともいえる。今年度は、新たに「哲学対話」を取り入れた。2グループで実施された対話は、「どうして学校で勉強するの?」「自分に向いている仕事って?」について話し合われた。哲学対話のルールに基づいて行われる対話は、安心して発言できる場となりそれぞれが深く考える場ともなったようである。今後も継続して行って、主体性を持って学ぶ意欲や姿勢を養い行動や判断する力を養うとともに、お互いを尊重し、良好な人間関係を構築するコミュニケーション能力を育成していく予定である。これからも定時制課程に関わる職員とともに全日制の職員各位の協力も得ながら、様々な問題を抱え学校へ行けなくなった生徒たちや学習のやり直しの場として、生徒たちと共に学習し成長していけるような定時制課程でありたい。そして「点滴石を穿つ」の言葉通り、少しずつでも歩みを進め奄美高等学校商業科卒業生として胸を張って卒業する生徒たちを育てていきたいと思う。